

No.・区分	30600	ハード部門（共通）
タイトル	暗い場所におけるチューブライトを利用した作業通路の明示	
動機・改善前の状況	<p>最近の建築現場にて建物の階高が高い傾向が多い中、型枠支保工として枠組支保工を採用する現場が多い。その中で階下の枠組支保工組内の作業通路を確保（明示）することが必要とされる。</p> <p>これまではスズラン灯での通路照明と通路位置標示を兼ねて取付けることが多かったが、スズラン灯ではどうしても電球の球切れや断線などによりその役目が十分とは言えなかった。</p> <p>また、枠組支保工の煩雑さから、その昇降設備がどこにあるかが判別し難く、現場入場して時期が浅い作業員などは昇降階段を使用せず、安易に枠組をよじ登るといった不安全行動をとる作業員がおり、墜落災害の要因でもあった。</p>	
改善・実施事項	<ul style="list-style-type: none"> 作業通路の照明としてはスズラン灯を取付け、その作業通路であることを明示するため赤色チューブライトを設置した。 チューブライトには点滅機能付きのものを採用し、より分かりやすくした。 	
改善効果	<ul style="list-style-type: none"> 新規入場の作業員はもちろんのこと、現場へ初めて来所した来客に対しても、一目瞭然で作業通路であることを明確にでき、迷路となりがちな支保工組内の作業通路をスムーズに行き来できた。 作業通路としての明確効果でその部分に資材などを置くことなどがなくなり、作業員への作業通路確保の意識向上が図れた。 	
活動内容 改善事項の図、 写真	<p>作業通路としての標識及びスズラン灯・チューブライトでの標示状況</p>  <p>チューブライトでの通路標示状況</p> 	
事例提供先	大豊建設(株)	